

学校 教育 目標	校訓「たくましい子 本庄の心」 地域の願いや期待を受け止め、自らの未来を切り拓こうとする意志と能力を持つ子どもの育成	昨年度 の 評価 概要	○小規模校の良さを活かし、児童一人ひとりに行き届いた教育が実施されているといえる。評定にもA評価が並ぶように、多くの指標で目標が達成できている。 ○タブレット端末の導入により、学習の様子が変わってきたことが随所に感じられる。 ○学校運営協議会としても、熟議の結果を受けて、除草をはじめとする環境整備活動や学校支援ボランティアなど（地域学校協働活動）を積極的に行ってきた。その結果、地域の方が学校に足を運び、地域とともにある学校づくりがより一層進んできていることを感じる。 ○中学校進学への不安は、中学校入学後の気後れに繋がる。小規模校で、一人ひとりが大事にされるのはよいことではあるが、過ぎればそれは弊害にもつながる。子どもの自立にとって何が必要か、小規模校だから考えるべき課題もある。	中期的 目標	○基礎基本の充実を図り、思考力・表現力を伸ばす。 ・読み解く力を発揮して学びを深める授業づくりを行う。 ○自ら考え、ともに学び合う力をつける。 ・自らの志を実現しようと努力する意欲を育てる。 ○豊かな心、たくましい体を育てる。 ・様々な体験を通して、心身ともにたくましい本庄っ子の育成を図る。
----------------	---	----------------------	--	-----------	---

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標） 数値は「よくそう思う」（強肯定）の割合	達成状況 数値は「よくそう思う」（強肯定）の割合	評価		改善方策	学校関係者評価
学力向上のための力点	学習意欲の向上 「学習内容がわかる」 75%以上 「学習は将来役に立つ」 75%以上	児 童：学習内容が分かる。(73%) 学習したことは将来役に立つと思う。(89%) 保護者：子どもは授業が分かり、楽しいと感じている。(38%)	A	B	指標・到達目標は、数値としては達成できた。引き続き、学ぶ楽しさが実感できる授業づくりに努める。	・活字離れが進む中、考える力をつけるのに読書は有効。いつか良本に巡り合えるよう、読書指導の取組は続けてほしい。 ・学習に関する数値は親子で差異が見られるが、保護者の数値が低いのは子どもに対する期待の表れか。
	授業改善 意見の交流や深め合う授業づくり 50%以上 ICTを効果的に活用した授業の実施 75%以上	児 童：友だちの意見を聞き、自分の考えと比べたり、深めたりしている。(71%) 教職員：授業づくりの工夫（意見の交流や深め合う場）。(36%)	B		個別最適で協働的な学びにより、児童の学習意欲の向上と主体的な学びの実現を図っていく。	
	家庭学習の習慣の定着（宿題＋自主学習） 低学年20分、中・高学年10分×学年」 75%以上 1年間に70冊以上の読書 50%以上	児 童：家庭学習は、学年の目標時間を達成。(56%) 年間70冊以上を目標に、進んで読書。(47%) 保護者：決まった時刻に目標時間以上家庭学習ができている。(21%)	B		家庭学習の定着に課題がある児童は、保護者と連絡を取り、家庭での過ごし方を丁寧に指導する。	
たくましい心身を鍛えるための力点	基本的な生活習慣の定着 「早寝・早起き・朝ご飯」「挨拶・返事・靴揃え」の習慣 75%以上	児 童：「早寝・早起き・朝ご飯」ができている。(55%) 教職員：「早寝・早起き…」「挨拶・返事…」を継続的に指導。(36%) 保護者：「挨拶・返事・靴揃え」の習慣が身についている。(17%)	B	B	教職員の共通理解を図るとともに、PTAと連携し保護者への啓発に努める。	・躾や生活習慣は、家庭環境の影響が大きいので、保護者やPTAとの連携が大事。また、挨拶や忍耐力などの人間力は、どの子にもしっかり身につけさせたい。 ・学校では、いろいろなことに耐えられる我慢強さや辛抱する力を育ててほしい。
	向上心や忍耐力の育成 自己目標（遠泳、マラソン等）の達成に向け努力できた 75%以上	児 童：運動会やマラソン大会などに一生懸命取り組めた。(75%) そうじは黙って、時間いっぱいまで頑張っている。(61%) ＊遠泳やマラソン大会など、事前練習は予定通り実施できた。	B		運動は、目標を持ち努力を続けられる子が多い。学習や読書、そうじなどにも粘り強く取り組ませたい。	
	安全・安心な学校づくり 「学校は安心できる場所だ」 75%以上 効果的な避難訓練や防災教育の実施	児 童：学校は安心できる場所。(74%) 安全に気をつけて行動。(81%) 廊下走らず右側通行(34%) 保護者：学校は、健康や安全への配慮ができている。(64%)	B		廊下歩行は、児童主導で意識を変えていく。警察や消防などと連携し、施設や態勢のチェックを実施する。	
豊かな心を育むための力点	個性を尊重し、つながり合う集団づくり 学級が楽しい、学校へ行くのが楽しみ 75%以上 自分にはよいところや得意なことがある 75%以上	児 童：学校生活は楽しい。(71%)自分には良いところがある。(71%) 友だちと活動するときは、協力してできた。(79%) 保護者：子どもの良いところを見つけて褒めている。(31%)	A	A	定期的に実施している児童アンケートにより、一人ひとりに寄り添った支援を心がける。	・JRC活動は、子どもの行動変容や成長に大いに役立つものであった。継続した取組を求める。 ・道徳心を身につけさせることは難しい。藤樹先生の教えや大事な言葉を、校内の共有スペースに掲示し、視覚に訴えるのも一つの方法かと思う。
	自発的に奉仕的な活動の推進 「気づき 考え 実行する」の実践 75%以上	児 童：JRC活動（「気づき 考え 実行する」）の定着 保護者：JRC活動で自主性を持って行動するよう導いてもらえた。 教職員：JRC活動が良好な人間関係を築くことに効果あり。(73%)	A		引き続きJRC活動に取り組み、児童の主体的・奉仕的な活動を行う。下学年の児童も学級で行う活動を推進する。	
	健全な倫理観の育成 考え議論したくなる道徳科の授業づくり 50%以上 人権週間における人権学習の取組	児 童：道徳の勉強は楽しい。生活に活かしている。(58%) 教職員：価値観を深め合えるよう道徳の授業を工夫した。(44%) 全教育活動を通して道徳的価値観の醸成に努めた。(27%)	B		「考え議論する」道徳の授業を通して、多様な価値観に触れ、高め合える道徳の授業改善を図る。	
地域とともにある学校	地域や保護者との連携（横のつながり） 学校運営協議会・地域学校協働活動の充実 学校・学年だより、ホームページ等により、学校や児童の様子が分かる 50%以上	児 童：地域の人にあいさつ(82%) ふるさと本庄が好き(78%) 教職員：地域の力を取り入れた教育ができている。(82%) 保護者：お便りや連絡により、学校や児童の様子がよくわかる。(40%)	A	B	地域学校協働活動との一体的な推進を図れるように、学校運営協議会での熟議を大事にしていく。学校地域連携カリキュラムの点検も随時行う。	・「地域の学校」は、学校運営協議会の最大目標として進めてきた。理解と協力のおかげで一定の成果が見られた。 ・小中とともに小小交流も大事にしたい。6年生のみならず、下学年でも交流が持てるとよい。
	小中一貫教育の推進（縦のつながり） 中学校進学への不安を感じていない児童 75%以上 小中合同授業研究の効果を感じている教員 50%以上	児 童：中学校進学への不安を感じていない。(80%) 教職員：他学年や中学校を意識した系統的な指導の展開。(36%) 小中合同での研究会は効果が期待できる。(9%)	B		小小・小中合同の授業研究会をさらに充実させる。6年生児童の不安を和らげる手立てを講じる。	

	総	評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点	
学校関係者評価	・評定は、もっと高い評価でも良いのではと思う。指標や達成状況を読んでいくと、学校だけでなく家庭での改善や地域との連携が必要なが分かる。細部にわたる分析がなされているので、来年度につなげてほしい。 ・JRCの取組など、子どもたちの成長ぶりは喜ばしい。また、協働的な学びに子どもたちが楽しく取り組む様子から、児童や地域の実情に合わせた的確な授業づくりがなされている。 ・高齢化が進む地域にあっては、子どもたちが地域の行事に参加し、元気な姿や無邪気な笑顔を見せてくれることは、地域の大人たちの心を和ませてくれることでもあり、とても喜んでいる。また、「ふるさとが好き」という意識がある子がたくさんいる学校は、ありそうでなかなかないと思う。このままその気持ちを持ち続けてほしい。 ・詳細は分からないが、小中合同授業研究の到達目標50%に対し、達成が9%の乖離を当事者の教職員がどのように受け止めているのか説明の責任がある。 ・評価に課題が見られる項目については、各家庭の頑張りが必要なものもある。親は子どもにとって、最も影響力のあるお手本として、しっかりした背中を見せれば、子どもはそれに倣って成長していくだろう。			B	・地域の思いを子どもたちに、子どもたちの思いを地域につなげていくことで、「地域の中にある学校」がより大きく、より堅固なものとなるだろう。学校運営協議会では、6年生児童や大学院研修でそうした課題に向き合う教員が参加し、熟議に加わってきた。児童発信の地域イベントや活性化事業の実施により、より緊密な関係となるように努めたい。 ・小中合同授業研究の効果を感じる教員の割合は、強肯定9%だが、肯定と合わせれば「効果が期待できる」と回答した教員は91%であった。数値は全般にわたり、強肯定（よくそう思う）のみを指標としていることから低く出たが、令和5年度6年度と中学校区で文部科学省・滋賀県教育委員会による道徳教育抜本的改善・充実に係る支援事業を受けた合同研究を推進してきたので、成果が実感できる研究にしていかなければならない。 ・家庭との連携が求められた課題については、PTAやひびきあい、懇談会などで課題を共有したり、対応を検討したりしながら、実効性のある取組が始められるようにする必要がある。また、学校からの発信だけでなく、学校運営協議会にお願いし、地域や各地区での具体的な取組につなげてもらえるようにしていきたい。